

**製品名: Smad1 (リン酸化Ser465) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05437**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	60kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SMAD1
別名	SMAD1; BSP1; MADH1; MADR1; Mothers against decapentaplegic homolog 1; MAD homolog 1; Mothers against DPP homolog 1; JV4-1; Mad-related protein 1; SMAD family member 1; SMAD 1; Smad1; hSMAD1; Transforming growth factor-beta-signaling protein
遺伝子 ID	4086.0
SwissProt ID	Q15797
免疫原	抗血清は、Ser465 のリン酸化部位周辺のヒト Smad1 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 416-465

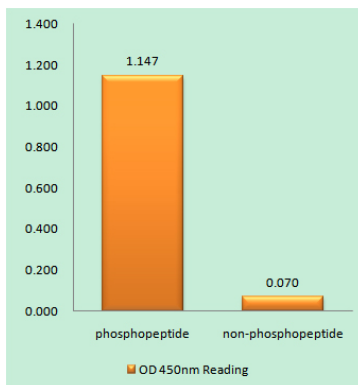
## 背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ショウジョウバエの遺伝子「mothers against decapentaplegic」(Mad) および線虫の遺伝子 Sma の遺伝子産物に類似したタンパク質ファミリーである SMAD に属します。SMAD タンパク質は、複数のシグナル伝達経路を媒介するシグナル伝達因子および転写調節因子です。このタンパク質は、細胞増殖、アポトーシス、形態形成、発達、免疫応答など、様々な生物学的活動に関与する骨形成タンパク質 (BMP) のシグナルを媒介します。BMP リガンドに反応して、このタンパク質は BMP 受容体キナーゼによってリン酸化され、活性化されます。リン酸化タンパク質は、転写制御における重要な役割を担う SMAD4 と複合体を形成します。このタンパク質は、SMURF1 や SMURF2 などの SMAD 特異的 E3 ユビキチンリガーゼの標的であり、ユビキチン化およびプロテアソーム分解を受けます。機能: BMP (骨形成タンパク質) タイプ 1 受容体キナーゼによって活性化される転写調節因子。SMAD1 は、受容体制御 SMAD (R-SMAD) です。PTM: BMP タイプ 1 受容体キナーゼによってセリンがリン酸化されます。PTM: SMAD 特異的 E3 ユビキチンリガーゼ SMURF1 によるユビキチン介在タンパク質分解。類似性: dwarfin/SMAD ファミリーに属します。類似性: 1つの MH1 (MAD 相同性 1) ドメインを含みます。類似性: 1つの MH2 (MAD 相同性 2) ドメインを含みます。細胞内位置: リガンドがない場合、細胞質内。SMAD4 と複合体を形成すると核へ移行する。サブユニット: HGS、NANOG、ZCCHC12 と相互作用する (相同性による)。別の SMAD1 および共 SMAD である SMAD4 と三量体を形成する場合があります。PEBP2- $\alpha$  サブユニット、CREB 結合タンパク質 (CBP)、p300、SMURF1、SMURF2、HOXC8 と相互作用する。BMP2 に応答して ZNF423 または ZNF521 と会合し、BMP 標的遺伝子の転写を活性化する。LBXCOR1 と相互作用する。組織特異性: 普遍的。心臓と骨格筋で最も高い発現が認められる。

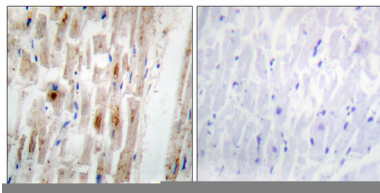
## 研究分野

TGF- $\beta$ ;

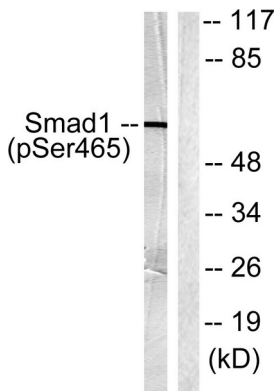
## 画像データ



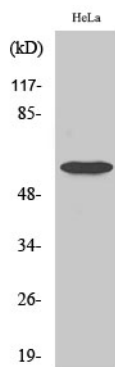
Smad1 (リン酸化 Ser465) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



Smad1 (リン酸化 Ser465) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



血清 10% 15% で処理した HeLa 細胞ライセートの Smad1 (リン酸化 Ser465) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Smad1 (S465) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析